

1 福井空港の現状

(1) 利用状況について

- 昭和51年以来、定期便は就航していないが、学生の課外活動としてグライダーによる利用が活発であるほか、操縦士ライセンス取得のための訓練施設、スカイフェス等の航空レジャーイベントの会場等として活用されている
- 県警察航空隊、県防災航空隊のヘリコプター、県立病院を基地病院としたドクターヘリが配備され、県民の安全、安心な暮らしを守る活動拠点として、また広域的な災害対応の拠点として活用されている

(2) 施設について

- 滑走路：長さ1,200m×幅30m、駐機スポット数：11か所、運用時間：9時から17時まで（17時までに日没となる場合は、日没まで）、供給燃料：航空機ガソリン、ジェット燃料
- 空港ビルは、建設から57年が経過し、老朽化が著しいものとなっており、建替等が必要と考えられる
ビル内は、管理事務所のほか、事業者貸部屋、研究等による貸しスペースとして利用されている

2 福井空港の将来像

将来の空港の姿として、グライダーを含む小型機などによる現在の利用者と共存しながら、離着陸の時間調整などに柔軟に対応できるという特徴を活かし、以下のような空港を目指す

- 多様な形態の小型機による、観光やビジネスを中心としたスポット的な利用を促進し、長期的には、地元理解等を前提に、定期的な利用を目指す
- 防災、救急医療の拠点として、大規模災害時に対応できるよう機能強化を目指す

将来像を実現するために短期、中期、長期に分けて進めていく（詳細については次ページに記載）

(1) 短期（目途）R5年度～R6年度＝挑戦

- 様々なモニターツアー等により、福井空港の利活用の可能性を探る
- 利活用の状況を踏まえて、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめていく

(2) 中期（目途）R7年度から5年程度＝実践

- 事業採算性のある取組の商業運航の開始を目指す
- 新空港ビルの構想を踏まえて、空港ビルを再整備する

(3) 長期＝飛躍

- 駐機スポット数や格納庫用地の拡充などさらなる空港施設整備を検討し、定期的な利用を目指す

3 今後の取組方針

(1) 空港全体の機能強化について

<短期> (目途) R5年度～R6年度

- 民間事業者によるヘリの運航について、市町と連携して県内主要観光地付近等（スキージャム勝山駐車場等）に場外離着陸場を確保のうえ、広く試験飛行を実施して活用の可能性を検証し、観光目的での新たな利用を提示する
- プライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、離着陸の時間調整やエプロン内での乗り継ぎに柔軟に対応できるという特徴が一般に認知されていないため、営業ツールを作成し、県外事務所等と連携するなど利用を呼びかけるとともに、旅行商品のモニターツアーの実施などにより、観光・ビジネス目的での利用増加を図る
- ビジネス目的で小型ジェット機を利用する企業への補助や、未婚のカップルを対象とした小型ジェット機による遊覧飛行の実施
- 国外からのプライベート機の受入に向けて、CIQ対応について運用を検討し、さらなる利用促進を目指す
- 既存の空港ビルについて、離着陸手続きの動線変更やロビーの展示内容のリニューアルなどにより有効活用し、利用者等の満足度向上を図る
- 9月の「空の日」にあわせたスカイフェスの開催や、体験搭乗会の実施など、地元住民が空港に足を運ぶ機会の増加を目指す
- 燃料給油や機体整備機能の維持を検討するほか、グライダーや小型機による継続的な利活用を図る（※中期以降も共通）
- 空港運用について、現在の空港施設（照明設備なし）での運用時間の延長を地元と調整のうえ検討する

<中期> (目途) R7年度から5年程度

- 民間事業者によるヘリの運航について、プライベート機や小型ジェット機のチャーター利用との接続も視野に、ヘリの運航事業者による県内主要観光地等を結んだ商業運航の開始を目指す
- 国内のプライベート機や、小型ジェット機のチャーター利用について、県外事務所等と連携して営業活動を継続し、更なる利用増加を図る
- 国外からのプライベート機について、海外事務所等と連携して福井空港の利用をPRし、福井空港での受入を目指す

<長期>

- 空港運用について、照明設備を新設したうえでの運用時間の延長の検討、アクセスの向上を図り、さらなる活性化を目指す
- 空港ビルの再整備とあわせ、駐機スポット数や格納庫用地などの空港施設を拡充し、地元理解と事業採算性を前提に、現在の福井空港で離着陸可能な航空機・ヘリによる定期的な利用を目指す
- 駐機スポット数を拡充し、大規模災害時における防災ヘリやドクターヘリの参集拠点としての機能強化を図る

<さらなる展望>

- 貨物輸送については、安定的な需要の確保、輸送コストの縮減といった課題があるため、今後需要を探り、定期的な輸送の可能性を検討していく
- 機体整備工場、航空運送事業者の活動拠点、空港に関係した体験施設などの整備については、今後需要を探り、可能性を検討していく
- 「空飛ぶクルマ」など次世代モビリティについては、国内での実証実験の進捗を見て、今後、受入れに必要な対応を検討していく

(2) 空港ビルの再整備について

- 令和5年度から6年度にかけて、利活用の状況を踏まえ、入居者や地元等関係者と協議を行い、現空港ビルの管理者と調整のうえ、具体的な新空港ビルの構想（案）をまとめる
- 令和7年度から5年程度をかけて、新空港ビルの構想を踏まえ、空港ビルを再整備する

目的	管理	旅客利用等の増加	地域交流等	利用者の活動スペースの確保		旅客利用の増加		利用者の活動スペースの確保 (待機、休憩所 (乗務員、飛行訓練者、災害対応従事者用))	その他利便性向上
				事業者用貸部屋	会議室 (共有スペース)	CIQスペース (海外客対応)	受付スペース (カウンター等)		
機能	管理事務所	ロビー	展望スペース	事業者用貸部屋	会議室 (共有スペース)	CIQスペース (海外客対応)	受付スペース (カウンター等)	待機、休憩所 (乗務員、飛行訓練者、災害対応従事者用)	飲食店、イートインスペースの整備等
現状	○	○	○	○	○	—	—	—	—
将来	○	現状有する機能について継続の必要性や規模を検討				追加の必要性や規模を検討			